

Steel 鉄の絶景 Landscape.

人を呼ぶ鉄 ～大阪～

ウォーターフロントを中心にさまざまな都市開発が進められる大阪西部地区に今春、世界でも例を見ないマルチドーム、大阪シティドームが誕生した。スポーツをはじめ、多様なイベントの開催が可能な新型複合施設である。まず目を引くのはその外観で、ある日突然町に降り立ったUFOとでもいうべきユニーク姿をみせている。あらゆる文化情報を世界へ、未来へと伝え、国際都市大阪をアピールする大阪の新たなランドマークを目指す。

今後の大阪の活力を生み出す新名所として期待を集める、大阪シティドームにせまった。



大阪シティドーム（合成写真）

多目的空間が多次元に融合する新複合施設

大阪シティドームはスポーツはもちろん、あらゆるイベントに適応可能という、従来のドームイメージを超越した多目的複合施設である。イベントの可能性を大幅に広げたのは、天井面に設置された7層のスーパーリング（可変天井システム）とウォールカーテンの組み合わせによって、アリーナ（1F）空間を自在に分割する技術だ。このスーパーリングと

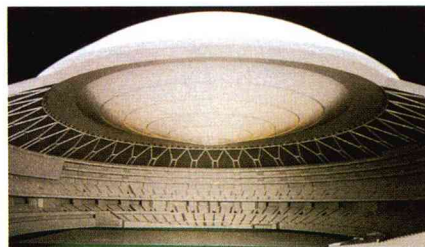
ウォールカーテンをイベント状況に合わせて昇降させるシステムを用いれば、2～5万人までそれぞれのイベント内容に合わせた空間スケールの選択および、観客席と一体となった臨場感あふれるステージ造りが可能となる。またこのシステムでは天井高72m（自然採光時）、自然採光範囲は直径76mというドーム空間をフルに生かした、光空間の多彩なプロデュースも可能だ。例えばスポーツイベント時には自然光をふんだんに採り入れたアウトドア感覚で観戦ムー



スーパーリングを最上部に設定し、自然採光でスポーツなどを行う場合



スーパーリングを降下させ、遮光状態でスポーツなどを行う場合



スーパーリングを最下部に設定し、遮光状態でコンサートなどを行う場合

ドを盛り上げ、コンサート時にはドーム全体を完全遮光して観客の集中力を高め、エキサイティングなイベント演出を実現させる。

スポーツイベントを開催する場合には、可動席を移動させればアメリカンフットボールやサッカーなど種目に応じたアリーナスペースを確保することもできる。なかでも野球の試合では、両翼100m、天井高72mのアリーナスペースをフルに生かすことで、大リーグ並みのスケールの大きなプレーが可能となる。大阪シティドームは今春のオープンと同時に、プロ野球球団「近鉄バッファローズ」のホーム球場としても稼働する予定である。

また今回、世界初のマルチドームとしてオープンする大阪シティドームの最も大きな特徴のひとつは、国内初の「大型人工芝巻取装置」の導入だ。この大型人工芝巻取装置は作業開始から約1時間でアリーナ面の中央部分(全体の約4分の3)を巻き取ることができ、次のイベントのための会場設営・準

備時間の短縮化に大きな効果を発揮する。このほか約500席完備されたスペシャルシートでは空調の個別コントロール機能によって快適な客席環境が確保できるほか、各席に設置されたパーソナルTVの実況中継や館内情報サービスが、イベント観戦の楽しさを倍増させてくれる。さらに4Fには本格的な食事を味わいながらドームのイベントをゆったりと楽しめるアリーナビューレストランも設置されている。

大阪シティドームは、イベント開催の有無にかかわらず人々が集い賑わうことのできる開かれたコミュニティ機能を備えたドームだ。イベント施設以外にもテーマパークやショップなどからなる遊び空間やレストランなどを設け、地下1Fから地上9Fまで快適な都市型空間を充実させている。鉄骨鉄筋コンクリート造、建設面積33,800m²の大阪シティドームの収容人数は55,000人。大阪の新たな顔として、文化の創造と育成を担ってゆくことだろう。

[資料提供：(株)大阪シティドーム]

～博物館探訪～(第1回) 科学技術館



全国各地にあるさまざまな博物館。意外な場所にあって気づかなかったり、知っていてもなかなか訪ねる機会がなかったり……。そこで今号以降は各地の特徴のある博物館にスポットを当て、不定期に紹介していきます。

東京都千代田区にある「科学技術館」は、2～5Fの4つのフロアにわたって科学系の展示を行う大型科学博物館である。(財)日本科学技術振興財団によって設立、昭和39年4月、開館した。「遊び・創造・発見の森」をキャッチフ

レーズに、来館者による参加体験型の展示が多く設けられている。館内ではパソコン体験ができるほか、宇宙開発・石油化学・太陽、風力、地熱などを利用する新エネルギー関連などさまざまな展示室が開かれ、3Fにあるテレビスタジオ見学コーナーでは、番組制作風景を見学することも可能だ。

4階には鉄に関する展示室「アイアン・ワールド」も常設されている。ここでは鉄と人間との歴史を学べる立体映像のほか、参加体験型の展示が数多い。非磁性鋼・形状記憶合金・制振鋼板、弾性鋼などさまざまな種類の鉄に触れたり、強・弱2種類の弾性鋼のバネを使用して難易度を高めたアイアンピンボール。またパソコンを利用したゲーム感覚のQ&Aで鉄に関するさまざまな知識を学べるアイアンクイズなど、鉄の新鮮な魅力に触れる機会にめぐまれた会場となっているのだ。

「アイアン・ワールド」での体験は、地殻中の資源として酸素・ケイ素・アルミニウムに次いで4番目に多い元素といわれる鉄が、その優れた特長からあらゆる産業の基礎材料として非常に重要な役割を果たしてきたことを再確認させてくれる。

これまでも青少年層を中心に、幼児から大人まで幅広い層が来館しているとのこと。